

令和5年度 ちゃぶ台次世代コーホート（第6回研修会）開催要項

令和5年度 同 Advanced Course（第9回研修会）開催要項

1. 趣 旨 教職志望学生や自立期・向上・充実期にある若手・中堅教員等の、教員としての資質の深化、教職実践課題の解決力や省察力等の醸成を図ることを目指した協働型教職研修を行う。

特に、教科等における授業づくり、生徒指導・学級経営・特別支援教育等の充実深化に向けた模擬授業や実践事例研究等、教職キャリア形成に関わる協議等を行うことをとおして、教育指導の充実を図り、今後のキャリアデザインに対する意識の高揚を図る。

2. 主 催 山口大学教育学部、同 大学院教育学研究科
独立行政法人教職員支援機構山口大学センター

3. 共 催 山口県教育委員会、山口市教育委員会

4. 開催日時 令和6年2月10日（土） 13:00～17:00

5. 開催場所 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム・22・23・24・41・42・43 番教室」
山口市吉田 1677-1 教育学部B棟 1階・2階・4階

6. 参加者 教職志望学生、教職大学院生、現職教員、教育委員会等関係者、大学教職員等

7. 研修内容

(1)開会行事 (13:00～13:10)
各会場

(2)課題研究発表 I (13:10～14:15)

発表1 (22 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
教職員支援機構次世代型教職員研修開発センター

研修プロデューサー 飯 干 新 さん

発表2 (41 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者

山口県光市立浅江小学校 教諭 宮 内 秀一郎さん

発表3 (42 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

山口県周南市立住吉中学校 教諭 安 達 佑 一さん

発表4 (43 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員

山口県宇部中央高等学校 教諭 板 倉 直 子さん

(3) 課題研究発表Ⅱ (14:30～15:35)

- 発表1 (22 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県下関市立角倉小学校 教諭 江村 葉さん
教諭 縄田 瑞葵さん
教諭 小川 拓馬さん
教諭 菅 紗緒里さん
- 発表2 (41 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
大阪府堺市立福泉中学校 教諭 川口 慎司さん
- 発表3 (42 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県山口市立平川小学校 教諭 白石 真也さん
- 発表4 (43 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県岩国市立灘中学校 教諭 井村 真規さん

(4) 課題研究発表Ⅲ (15:50～16:55)

- 発表1 (22 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県防府市立桑山中学校 校長 美作 健悟さん
- 発表2 (23 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県美祢市立淳美小学校 教諭 谷 貞佑さん
- 発表3 (41 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県宇部市立琴芝小学校 教諭 山口 佳恵さん
- 発表4 (42 番教室) やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
山口県周南市立福川中学校 教諭 山本 貴志さん
- 発表5 (43 番教室) ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course 参加者
山口県立防府高等学校 教諭 黒川 真実さん

(5) 閉会行事 (16:55～17:00)

8. その他

- (1) 本研修事業は、山口大学教育学部「ちゃぶ台方式教職研修部」経費、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。

「ちゃぶ台次世代コーホート第6回研修会」
「ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced Course第9回研修会」
山口大学教育学部・山口大学大学院教育学研究科・独立行政法人教職員支援機構山口大学センター・
山口県教育委員会・山口市教育委員会連携事業

2023年2月10日（土）

授業づくりや幅広い教育課題の
ワークショップや課題研究発表を
開催します！



山口大学教育学部：B棟：
ちゃぶ台ルーム・2階教室・4階教室

★受付は、ちゃぶ台ルーム前にて12:30～行います。
(天候によっては、24番教室前・教室内にて)

第1部

(13:10~14:15)



(2階)

22番 教室	子どもと共に育つ先生 ~私らしい先生であるために~ 教職員支援機構次世代型教職員研修開発センター 研修プロデューサー 飯干 新 さん
-----------	---

(4階)

41番 教室	*対象：教職志望学生、初任者教員、2・3年次教員 学生時代を振り返って 教職について 想うこと 山口県光市立浅江小学校 教諭 宮内 秀一郎さん
42番 教室	【やまぐち総合教育支援センター長期研修教員】 個別最適な学びによる 表現する意欲を高める授業づくりに関する研究 —中学校数学科におけるデジタル版 「やまぐちっ子学習プリント」の活用を通して— 山口県周南市立住吉中学校 教諭 安達 佑一さん
43番 教室	【やまぐち総合教育支援センター長期研修教員】 見通しを立てる力の育成をめざした 学習指導の充実に関する研究 —ICT機器等を活用した解決までの流れを 可視化する活動を通して— 山口県立宇部中央高等学校 教諭 板倉 直子さん



第2部

(14:30~15:35)

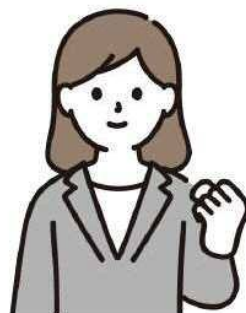


(2階)

22番 教室	角倉小の校内研修と 総合的な学習の時間・自立活動の授業実践紹介！ —『つながり』を大切にし、 『つながり』から学びを深める—			
	山口県下関市立角倉小学校	教諭	江村 葉 さん 教諭 縄田 瑞葵 さん 教諭 小川 拓馬 さん 教諭 菅 紗緒里 さん	

(4階)

41番 教室	特別支援教育の充実って、どうやるの？ —特別支援教育コーディネーターが考える 戦略と課題—			
	大阪府堺市立福泉中学校	教諭	川口 慎司 さん	
42番 教室	わくわくカリマネプランを創ろう			
	山口県山口市立平川小学校	教諭	白石 真也 さん	
43番 教室	どうやって若手教員を育てるか —日々の校務を通して—			
	山口県岩国市立灘中学校	教諭	井村 真規 さん	



第3部

(15:50~16:55)

(2階)

22番 教室	学校を元気にするー学びと遊び心を大切にー 学校と地域の連携による子育て支援の取組と 生徒による「教師の日」プロジェクトの取組 山口県防府市立桑山中学校 校長 美作 健悟 さん
23番 教室	小中の円滑な接続を図る有効な手立てを探る 山口県美祢市立淳美小学校 教諭 谷 貞佑 さん

(4階)

41番 教室	【やまぐち総合教育支援センター長期研修教員】 自らの学習を調整する力を育てる 算数科の授業づくりに関する研究 ーデジタル版「やまぐちっ子学習プリント」の 活用による「個別最適な学び」を通してー 山口県宇部市立琴芝小学校 教諭 山口 佳恵 さん
42番 教室	【やまぐち総合教育支援センター長期研修教員】 自分の考えを言語化することによる 知識の概念的な理解を促す指導に関する研究 ー「伝え合う活動」と「振り返り」を 継続的に取り入れた授業を通してー 山口県周南市立福川中学校 教諭 山本 貴志 さん
43番 教室	総合的な探究の時間を楽しんでいますか？ Curious Classroom : 探究と発見の旅へ、ICT&生成AIと描くストーリー 山口県立防府高等学校 教諭 黒川 真実 さん



★事例研究★「周南市の教育について」

指導者 周南市教育委員会 教育部次長・教育政策課長 十楽 さゆりさん



コーホート（教職志望学生[学部生]や若手教員）の振り返りを通して、研修会の様子をお伝えします。

部活の地域移行についてのお話は、私が通っていた市の中学校とは違った施策なのではないかと感じた。周南市が山口県の中で先駆けであると感じた。地域移行によるメリットだけでなく、部活に頼っていた部分もある集団づくりに関してはデメリットがあり、そのためにも、学校における授業などを見直す必要があることについても知ることができた。

山口県の教員を目指しているの、自分の出身の市だけでなく、周南市をはじめそれぞれの市でどのような施策があるのかを知っておきたい。
(大学3年生)



後半には、石井岳文課長補佐、小林弘典指導主事も参加してくださって、「ミニ・シンポジウム」

行政的の立場からのお話については初めて聞いたので新鮮でした。周南市の教育大綱・基本方針のことを聞いて、恥ずかしながら、各市にそんなものがあったことすら知りませんでした。学校と行政が足並みをそろえていくためにも、きちんとしておかなければと思いました。

また、学校で円滑に過ごせるのも、行政の方がいろんな部署や機関と協力してくださっているお陰だと分かったので、そういう方にも感謝しながら、協力しながら働いていきたいと思えます。
(小学校教諭)



教育委員会の方のお話を聞くことはまずないので、教員を目指す上で貴重な時間をいただきました。

関心があったのは部活動の地域移行です。働き方改革ではなく、子どもの環境を整えることに重点を置いていると学びました。特に、部活動というイメージをなくす、ボランティアや伝統芸能も含めるといった習い事をやるような感覚という言葉が印象に残りました。また、周南コミュニティクラブという団体はゆるいクラブのようなもので、子どもが集い、地域に帰っていくといったコンセプトを持っていることを知りました。部活動はどちらかというと学校がやるものという閉鎖的なイメージが強いですが、コミュニティクラブは地域の方と一緒に活動するといった意味合いがあると思えました。

私の時は、中学生は部活動に入るのが義務だと言われていました。今でもそういった方針の学校は多いと思いますが、多様な子どもたちがいる中で、部活動をする・しないも含め、新たな選択ができることが大切だと思えました。
(大学2年生)



部活動の地域移行の話が特に印象に残りました。「部活動が先生の負担になっている」という記事をよく新聞で読みますが、小学生の習い事と似たような扱いになれば、先生の負担も減ると感じました。「競技性をつながり重視した団体を分ける」というのは良いアイデアだと思えました。

しかし、経済格差などの問題も存在しているため、この問題について考え続けることが大切だと思えました。

また、長期的な計画を立てることの大切さも学ぶことができました。長期的な計画を立てることは難しいですが、重要なことであるため、その能力を身に付けることができるように努力したいです。
(大学2年生)



★記念講演★

「アスリートとして生きること～不可能とは可能性のこと～

講師 日立ソリューションズ「チームAURORA」スキー部 新田佳浩さん



新田さん

平昌オリンピック（CCミドルクラシカル）金メダリスト、2022-23シーズンワールドカップ年間総合3位のパラスキーのレジェンドの新田さんのお話をお聞きしました。

世界相手に活躍されている方のお話をお聞きするチャンスはなかなかありません。まさか、メダルの実物まで全員に触らせてくださるとは！感激しましたね。

コーホート（教職志望学生[学部生]や若手教員）の振り返りを通して、ご講演の様子をお伝えします。



会員の中原基一郎先生（下松市立末武中学校）と新田さんは大学の同級生。講師紹介をしてくださいました。また、中原先生のお力添えて、新田さんを講師として招聘することができました。

心技体の心を特に大切にされているというお話が、印象深かった。技術や丈夫な体を持っていても、心がしっかりしていないと意味がない。何かをしたいという気持ちがなければ実現することはできない。

新田さんがオリンピックで金メダルを獲得したときには、獲得したい理由が明確にあったとお話をされていた。私は、どうすれば自分のやりたいことができるのかということばかりを考えてしまうが、やってみたいという気持ちを大切に、心技体の心をしっかりと持って行動したいと思った。（大学3年）

アスリートってかっこいいなと思いました。

1番心に残ったのは、「失敗することで成功に近づいている」というお言葉です。何度も挑戦して、失敗も成功もされているからこそ出るお言葉なんだと思います。失敗したときに、そう思えると、ポジティブな気持ちで次に挑戦できると思うので、自分も心かけたいです。

そして、なりたい自分を思い描いて、逆算してスモールゴールを設定すること、自分はもちろん、子どもたちにも生かしていきたいです。

（小学校教諭）



心のモチベーションを保つためには、自己分析や探求心が大切であると感じました。私は日ごろから何か漠然とした不安を感じる事がよくあります。新田さんのお話の中で、「不安なことを一個ずつ書き出していくことで、心が整理され気分が軽くなる」ということを学んだため、これから実践していきたいです。

「諦めない」と良いことがある」ということを子どもたちに伝えることができる教師になるためには、自分自身が何事にも挑戦し、失敗しても最後まで諦めず努力し続けることができる力を身に付けておくことが大事であると思います。

子どもたちに「やりたい」と思わせるためには、どのような心持ちで、どのように子どもたちと関わっていくべきであるか、改めて深く考えていこうと思いました。

また、無意識のうちにある「違う」という感覚で人を傷つけてしまうことがないように、自分の言動を振り返りたいです。（大学2年生）

私は、よくアスリートの方がインタビューなどで、「ここまで来られたのは周りの人のおかげで、感謝をしています」と話しているのを見て不思議に感じていました。なぜなら、周りのサポートがあったとしても努力したのは間違いなく本人であり、自分の辛かった時間を褒めたたえる意味でも自信をもって「努力をして頑張ってきました」と言っているのではと思っていました。

しかし、新田さんの話を聞いてアスリートの発する言葉の意味を少し理解できたと思います。大会に気象予報士を連れていくというエピソードをお聞きして、そこまでやるのかと非常に驚きました。でも、勝つためにはむしろ周りの力をどう活かすかが重要なのだと気付きました。どのアスリートも、個人のレベルはみなトップクラスだと思います。だからこそ、そこから一つ抜き出るには技術ではない何かに目を向けることが、金メダルにつながるのだと感じました。

子どもに伝えたいこととしては、「実際にオリンピックのメダルに触れたことがある」、「パラリンピックのメダルには点字が打ってある」という体験談です。五感を通じて感じたことを伝え、子どもは熱心に聞いてくれると思います。私自身、いつかメダルに触れたいなど漠然と思っていました。本物に触れるという体験は、その人の人生に大きな影響を与えると学びました。（大学3年生）



★運営等について★

様々な地域の特徴を知ることができる貴重な機会になると思った。今回は周南市の教育施策についての講義があったが、他の市ではどのような特徴があるのかもお話を聞きたいと思った。

また、徳山動物園のように山口県にある施設には、将来教員になった時に子どもたちを連れてお世話になる可能性もあるので、山口県にある施設について自分が足を運び多くのことを学んで将来にいかしたいと感じた。

動物園では五感を使って学ぶことができ、本物って大切だなと思いました。また徳山駅の図書館もこんなステキな研修できるところがあるのだと知ることができました。

地図やアクセス方法など丁寧に記してくださったので、迷子になることなく集合場所に行けました。本当にありがとうございました。

大人数でバスに乗って市外に出る、というのは久しぶりで、社会見学のようなワクワク感があり、とても楽しかったです。コロナの影響で、最近では市外に出ること自体が少なくなっていたため、今回周南市に実際に赴くことができ嬉しかったです。実際に、自分の目で見たり聞いたり感じたりすることができる機会は、とても貴重だと思います。また機会があれば、他の地域でも学習したいです。

私は山口県出身ではなかったのですが、山口市以外の地域を少しでも知ることができ、大変ありがたかったです。有名な詩人まどみちおが山口県出身だと聞いたときは、驚きました。地元の人にとっては既知事実かもしれないけど、私にとっては初めてのことだったので、地域開催することで得られる効果は大きいと思いました。

★次回以降の予告★

第4・5回コーホート研修会

12月23日（土）に、Advanced course研修会と合同で開催します。

NITS・山口大学教職大学院コラボ研修プログラム事業(NITS カフェ)

「保護者と創造する学校の未来づくりセミナー」として開催します。

なかなか保護者と一緒に研修会！という機会もありませんので、是非、ご参加ください。



詳細については、また案内しますが、第6回研修会は、**コーホート登録者以外の参加も受け付けております。**

是非、お仲間や同級生に声をかけてくださいね。共に、真面目に、楽しく学ぶコーホートの仲間を増やしていきましょう。

たくさんの講座がありますので、お楽しみに！

第6回コーホート研修会

Advanced course研修会と合同開催です。

「ちゃぶ台次世代コーホート第6回研修会」
「ちゃぶ台次世代コーホートAdvanced Course第9回研修会」
山口大学教育学部・山口大学大学院教育学研究科・独立行政法人教職員支援機構山口大学センター・山口県教育委員会・山口市教育委員会連携事業

2023年2月10日（土）

授業づくりや幅広い教育課題の
ワークショップや課題研究発表を
開催します！



山口大学教育学部：B棟：
ちゃぶ台ルーム・2階教室・4階教室

★受付は、ちゃぶ台ルーム前にて12:30～行います。
(天候によっては、24番教室前・教室内にて)



「子どもたちの学び、育ち」、「この国の先と学校の姿」をど真ん中に置いて、 学校と家庭のつながりや学校教育のあり方を考えた「NITS カフェ」でした!

12月、山口市はクリスマス市になる...! まちがとっても綺麗な12月23日。前日に終業式を済ませたばかりの先生たち、冬季休業目前の学生たちが集まって、本年度2回目の「NITS カフェ (保護者と創造する学校の未来づくりセミナー)」を開催しました。



終日の研修行事にもかかわらず、茨城・大阪・広島・山口・福岡からの参加者は74人。現職教員32人(小15、中10、高5、特支2)、学生16人、教委担当者3人、大学関係者13人に県PTA連合会の皆さん(9人)とオンライン登場の工藤勇一先生。

寒い日でしたが、ホットでエネルギッシュなCafé! 充実した学びの概要を報告しましょう。

カフェ(ちゃぶ台WS)「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」 指導助言者(いつも元気な保護者を代表して) 山口県PTA連合会の皆さん

山口大学大学院教育学研究科の鷹岡 亮 研究科長さんの開会挨拶に続いて、早速「カフェ」です。年齢、地域、職種、校種や立場等の異なる人たちが、心地よい空気感の中で語り合えるのがCaféの魅力。



保護者の皆さんの元気、勢い、やる気も加わって「勢いと未来志向のCafé」って感じでした。ご参加下さった保護者代表の皆さん(学校・市・県PTA役員経験者)は、佐伯弘明・佐々本智美・辻本千夏・友景里絵・西川仁了・松田龍信・松永英治・松原真奈美・溝口憲治さんでした。年末にもかかわらず快くご参加いただき、本当にありがとうございました。

カフェの中では、参加者が事前に準備した「宿題(事前探求課題)」をもとに、①「保護者と共に考えてみたいこと」のテーマ協議、②「学校と家庭(地域)の連携・協働のアイデア」創造のワークを行いました。①で話し合った相互の信頼関係づくり、学校(教職員)と家庭(保護者)の距離感や役割分担等をふまえて、②では、全グループから1+1≧3にするユニークな取組や現在の社会・地域事情や課題を反映したプロジェクト等の提案もなされ、それぞれの笑顔と「らしさ」が溢れるワークショップとなりました。



受講者のコメントから

カフェの魅力は、同じテーブルを囲み、志ある人々が立場、校種や年齢を越えて語りあえるところと思う。多様な考え方、自分に無かった視点にふれる中で、自身の教育「観」を振り返り、明日からの自分を前向きにとらえ直すことができる貴重な場と感じた。今回、「保護者」の方の視点を伺うことができることを楽しみにしていた。

PTAは、世間的にも、教職員にとっても、保護者の組織というイメージがある。同じ班の若い先生は「PTAの仕事は管理職の仕事というイメージがあり、直接会議等に関わることはない」と言われた。業務改善の波の中で多くの学校が同じような状況なのではないか。一方で保護者の方は「最初の頃、なぜPTAの会議に管理職しか関わらないのか疑問だった」と仰った。教職員や保護者の多くがPTAの意義、活動内容や連携の可能性について知らない状況は改善しなければならぬが、そのためのヒントが今回のカフェにあると実感した。

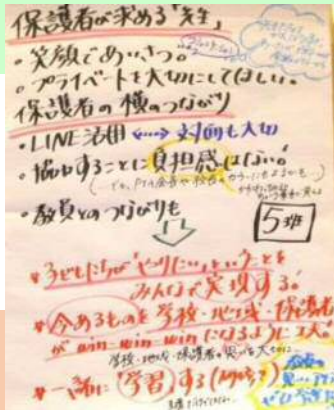


カフェをとおして、保護者と教職員が情報や思いを「共有」することが、子どもの成長という共通の目的に向かっていくために大切な要素と考えた。山口県では、コミュニティ・スクールの機能が充実しているため、各学校の工夫のもと、役員だけではなく保護者と、管理職だけではなく教職員が、今回のカフェのようにテーブルを囲み、子どもの成長を話題にして話す場を設定できないかと考えた。ぜひ実施してみたいと思っている。(小学校)

保護者の方から、「先生たち、がんばりすぎているよ。忙しすぎるよね。」と心配して貰いました。その他諸々の話をする中で、PTAの「T」が「Teacher」であることを私たち教員はどれだけ意識できているかな?と、これまでの自身の関わり方や学校の空気感を振り返る貴重な経験の場でした。

勤務校では、管理職の「配慮」により、勤務時間外のPTA会合等に参加することは求められません。様々PTA行事も教員の業務改善や役員の負担軽減を理由に精選されています。それらが積み重なって、同じ組織に属する「P」と「T」のつながりがどんどん薄れていることを改めて感じています。

ご一緒した役員さんのように、子どもたちと学校のことを思い、さらにはそれを「自分の成長のため」と捉え、熱心に活動に取り組む保護者や教職員がどれだけいるでしょう。「P」と「T」と別々に捉えるのではなく、共に子どもの学びと育ちを支援する仲間、学び成長し続ける大人同士として、活動を楽しめる組織にしたいと思いました。(小学校)



学校実習に行っても、保護者の方と話すことはないので、新鮮で学びが多かったです。保護者の方の学校や教員に対する熱い思い、教員を信頼して率先して動かれる行動力が、学校と家庭の連携協力を支えているんだと改めて感じました。教員になった際には保護者の方と積極的に関わっていこうと思いましたが、保護者の方との関わり方について不安がありましたが、今回のカフェでその不安が少なくなりました。(教職大学院生)

保護者の方を交えて学校のことを話すという機会は初めてで、今後も無いような貴重な体験をすることができた。保護者の方から「学校や先生はどのように思われているのか」多くの話を聞くことができ、いつもとはまた違う

視点から学校について考えることができた。特に印象に残っているのは「困っていることがあったら、先生の方から、困っているから助けてと素直に保護者にも伝えて頼ってほしい」というPTAの方のお話だ。先生は責任感の強さからか、問題を一人で抱え込みがちと講義の中でもよく聞く。しかし、学校現場での問題はますます複雑化していき、問題をみんなで共有することが今まで以上に重要になってくると思う。その時、学校だけで解決しようとするのではなく、保護者や地域の人々とも連携していくことが大切だと思った。先生が保護者を頼ることで、保護者も先生に頼りやすくなり、お互いに支え合える関係を気付くことができるのではないかと思った。(学部生)



講演「社会の変化とこれから学校教育～主体性と当事者意識～」 講師 横浜創英中・高等学校 校長 工藤 勇一さん

午後は待ちに待った工藤先生のご講演。今回の講演は昨年3月に引き受けていただき、4月に登録会員に連絡しました。その日のうちに「えっ?工藤先生ってあの工藤校長先生ですか?」、「麴町中学校にいらした工藤先生のお話を山口で聞けるんですか?」等、感激のメールが殺到。変革を迫られている教育界にあって「教育の本質とは、それぞれが当事者意識をもって考え、動くこと」、「最上位目標を明確にして自己決定できる自立した人間を育てる」を信念とし、様々な教育改革、学校づくりを牽引なさる先生だからこその迫力あるご講演は、今後の学校や教育のあり方を考える上で貴重な2時間でした。工藤先生、本当にありがとうございました。

受講者のコメントから

工藤先生のお話は、革新的で、これまでの日本の教育を覆すような内容もあったため、衝撃を受けた。それと同時に、何かを変える、新しくしていくためには周囲に対する大きな衝撃と批判を恐れずに挑戦し続けるパワーが必要なのではないかと感じた。新しい取り組みであればあるほど、自分たちの価値観にはないものなので、周囲からは拒否反応も出てしまう。しかし、それで諦めるのではなく、挑戦し、発信し続けることで生徒の主体性と当事者意識を大切にしたい教育を確立することができたのだと思った。



現在、子どもの主体性を大切にしたい実践研究を行っているが、新しいことを現場でしようと思った際、難しいことも多々ある。しかし、今子どもたちに求められているのは何なのか？ということに常に念頭に置きながら、子どもを中心に置いて感情論ではない話し合いができるように工夫していきたい。そして、工藤先生のように挑戦し続けたいと思った。自分一人では難しいこともたくさんあるので、同じ思いの仲間を見つけることも目標に掲げて来年度も頑張っていきたいと決意した。(特別支援学校)



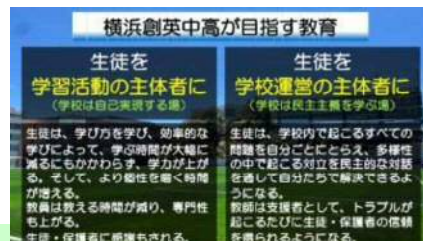
自身の学校改善のための研究が特別活動であるため、工藤先生の著書はいくつか読んだ状態で講演に臨んだ。主体性やAgencyが求められる時代において、日本の教育が真逆なことをしてきたという衝撃は受けたが、日本が大切にしてきた特別活動を通して主体性を身につけさせることはできるのではないかと思う。

私の学校では、体育祭や文化祭、生徒総会で生徒主催の企画を創り出し、生徒が学校運営に参画し始めている。生徒につけたい力(工藤先生は「最上位の目標」と何度も口にされたが)を常に意識し、特別活動や総合的な学習の時間をカリキュラム・マネジメントすることによって主体性をもった生徒を育てていきたい。

来年度の自分のチャレンジとして、教職員や生徒に「自分のトリセツ」を作らせてみたいと思う。生徒版トリセツは、現行のキャリア・パスポートの取組に少し工夫を加えていく。ワークシートに自分の成長を感じたポイントを意識して書きこませたり、素敵な取組や作品を写真に残したりしながらポートフォリオしていくとすぐにはできないか。教職員版トリセツは、校内研修などで自己開示をする時間をとったり、学年団でお互いの良さを語り合ったりすることから始めたい。教職員版トリセツを作ることが教職員のAgencyの獲得につながり、学校経営に自分の得意を生かしながら参画していく教職員が育つ学校にしていきたい。(中学校)

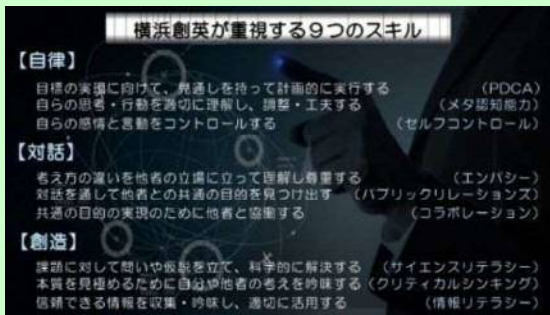
なかなか難しいお話で、表面では理解できますが真の意味で理解できるのは現場に出てバリバリ働き始めてからかもしれないです…。

ただ、その中でも「主体性」についてのお話が大変興味深かったです。生まれて「主体性」が溢れている状態から親や周りの環境によってだんだん主体性を失ってしまうこと、そして失われた主体性を再生するのは難しいことがよく分かりました。しかし、学校現場(自身の学生時代や実習校のこと)を振り返ってみると教師が手助けしている部分が非常に多いと感じます。先生方も決められた時間の中で決められたことをこなすには仕方ない部分もあるのかもしれませんが、もう少し生徒を信頼して思いきって任せることも必要だと思いました。そうすることで、工藤先生がおっしゃっていた「当事者意識」が芽生えてくるのだと思います。以前聞いたフィンランドの教育の話と通ずるものを感じていて、私自身、生徒たちを社会で生きていける人間にしたいという思いがあるので、現実的な難しさはいったんおいて、共感するところが多くありました。(教職大学院生)



工藤先生の著書を拝読し、講演を拝聴する度に、その言語化する能力に心を打たれます。横浜創英中等高等学校のホームページに掲載されている校長の挨拶を読んだ際も、現代(これからの)の時代背景とそれに必要な力、目指すべき姿が明確に述べられている点が印象的でした。曖昧さを一切許さず、明確なビジョンを提示するその姿勢は、教育の本質を突いていると感じます。

このように明確に言語化し、実行に移すことで、マインドセットの変革が可能になると感じます。多くの場合、「まあまあ」という調整の名の下に、曖昧な対応に終始し、対立がなく心地いかもしれないが、結果として何も進展しないことがあります。しかし、生徒のために何が必要か、それを達成するために何をすべきかをゴールオリエンテッドな思考で考えることが重要です。ゴールが明確であれば、現状とのギャップが見え、適切な手段を選び、最適化しながら前進できます。



「なぜ変革できないのか」ということを考えると、そもそも楽をしたいので変革は望んでいないのだと思います。たとえ、「今のままでまずい」と感じ動き始めていることすら、全体像は見えず、計画性のない行き当たりばったりの業務にうんざりすることもあります。このような環境で育つ生徒たちは、方向性を見失いがちです。ぬるい環境で育った子どもたちには競争力がなく、新たな価値を生み出すことも難しいでしょう。結果として自滅なのかなと思うことがあります。教員が「自分たちが

習ってきた方法で教える」「従順な生徒を育てる」という古いスタイルに固執することは、教育の本質から逸脱しています。結局のところ、このようなアプローチは生徒、教師、保護者、さらには社会全体にとっても幸福をもたら

さないかもしれません。これが日本が競争力を失っていくことにつながっています。教師主体で単に知識を伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、自分で歩いて生きる生徒の姿を想像して、そのために何ができるのか、教師が何を手放すことができるのかを考えたいと思いました。(高等学校)

前半のワークの時にも、保護者として我が子には「自分のことを自分で決められる子」「将来自立できる子」になってほしいという願いを伺っていたので、工藤先生のご講演のタイトルがとてもタイムリーで、興味深く拝聴させていただきました。

一番衝撃を受けたのが「主体性のない子どもの主体性を育てるにはどうすればいいか」という問い自体に誤りがあるということである。赤ちゃんのときに主体性のない子はいない。欧米の教育はいかにその主体性を損なわないようにするか、ということに重点が置かれているのに対し、日本では子どもの将来のために良かれと思ながら手をかけすぎ、主体性を奪ってきたのではないか、というお話であった。では、そこから脱却するにはなにが必要か、ということ、脳神経科学の分野や、西洋と日本の歴史の違いなど、様々な視点から理論的にお話いただく中で、時間が過ぎるのがあっという間であったまだまだお伺いしたいことがたくさんあったが、工藤先生にご紹介いただいた YouTube の情報や御著書をこれからも追いかけていきたいと思う。工藤先生から学ばせていただいたのは、最新の理論に裏付けされたリーダーシップの強さである。これまでの教職員が信じて疑わなかった教育とは真逆のことを提案される場合などは、不安に思う人、否定的になる人など、様々な反応があったのではないと思われる。しかし、工藤先生のお話からは、強い意志と、絶対にやりきるといふ熱を感じ、現在ご勤務の横浜創英中・高の先生方は「この人についていったら実現するかもしれない」「必ず実現させる」という気持ちになるのではないかと感じた。何かを実現させようとするときに必要なリーダーの「伝え方」や「進め方」について、あらゆる仕掛けの一部を見せていただくことができた。(小学校)



優れた実践や改革をする人は、その人が語る分野(専門)を取り巻くあらゆることに注意が向けられていて、今の状況を俯瞰的に捉えておられるのだと思います。工藤先生も世界経済や AI 等 IT の動向、脳神経科学など、学校教育以外の視点からたくさんのお話をしてくださりました。工藤先生の変革への思いや理念はよく分かりました。

講演を聴いて、学びも多かったのですが、(私の指導のスタイルは工藤先生の言われるように世話の焼きすぎであります。)それ以上に疑問が多く、工藤先生の実践の具体を知りたいと強く思いました。日本の学校教育が工藤先生の描くものに変わっていくためには、考えないといけないこと、議論しないといけないことが多いでしょうし、時間もかかりそうです。また、教師の役割についても大きな転換を求められているようにも感じます。そして、工藤校長のもと学校改革を進める現場の先生方の声も聞いてみたいと思いました。(小学校)



工藤先生のご講演を通して、「児童の主体性」を大切にする事の重要性が心に残りました。公立学校ではこれまでの仕組みを大幅に変えることは難しいのだと思いますが、小さなことは自己決定の要素を組み込むことが出来ると思えました。講演を振り返りながら、教育実習先の先生が、漢字の宿題の範囲を自分で決めるという手立てをなさっていたのを思い出しました。実習中に参観させていただいた国語の授業で、抜き打ちで簡単な漢字テストを行われていました。テストが終わった後にその先生が「みんなドリルの最初の方ばかり練習しているけど、新しく習った範囲も練習しないとなかなか覚えられないよ。」とおっしゃっていました。このように、ただ自己決定の要素を取り入れることで終わるだけでなく、自身の苦手分野に気づき、それに取り組む必要性を感じられる手立ても行うことが大切なのだろうと思えました。

疑問に思った点としては、教師の新たな役割についてです。工藤先生の考えておられる教育を進める上では、従来と異なる教師の新たな役割が必要になるため、その理論や実践例を知りたいと思いました。私の考えとしては、主体的な活動の中で、児童が気づきにくい部分にアプローチし視野を広げて考えるきっかけを作ることが、新たな教師の役割として必要になってくるのでは!と思えました。(学部生)

講評・閉会

最後に、山口県教育庁教職員課の丸山茂生先生から、教職員、学生と保護者による今回の研修スタイルの魅力と先進性等をふまえた講評があり、和泉研二センター長の閉会挨拶+「良いお年を〜!」で終了しました。今年もお世話になり、ありがとうございました。2024年も宜しくお祈りします。

